

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

壬生川地区小型船だまり荷捌き場さば

平成26年4月に使用を開始した「壬生川地区小型船だまり荷捌き場」。漁から戻った漁船から、さまざまな魚介類が水揚げされます。地元の漁業者が種類ごとに仕分けし、近隣の魚市場に出荷。時には保存容器に



▲水産振興の一大拠点

空気ポンプを取り付けて、漁業者の厳しい目で選び抜かれた魚介類を生きた状態で箱詰めし、遠く四国外にも出荷しています。

使用開始からまだ

日の浅い荷捌き場。屋根がつき、水道や電源も完備。年中、時に強い日差しや風雨の中、出荷作業に追われる漁業者たちからも「作業をするのが楽になった。以前より良い状態で出荷できるようになった」など評判も上々です。

昨年11月には壬生川産ガザミが「瀬戸の媛がに」としてブランド化され、近畿地区をはじめとする大市場からの注文が増加し、この施設の重要性が高まっています。毎月第2日曜日の朝8時から開催の「壬生川大漁市」でも有効活用され、地産地消にも一役買っており、まさに地域の水産振興の一大拠点となりつつあります。

今日も皆さんの食卓に新鮮でおいしい魚介類を届けるため、漁業者たちはがんばっています。

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

防災プロジェクト学習への取り組み ～避難マニュアルを作ろう～

丹原小学校6年生45人は、昨年4月からシンクタンク未来教育ビジョン代表の鈴木敏恵先生による指導の下で「地震が起きたときの場所別避難マニュアルをつくる」「どこにいても、地震が起きたときに、自分一人で安全に避難できるようにすること」を目標に、防災プロジェクト学習に取り組んできました。

通学班ごとにテーマを決めて学習を進め、丹原公民館で2月4日にプレゼンテーションが行われました。どの班にも共通するテーマは「低学年児童の安全を確保し、無事に避難すること」です。これまでの大地震の教訓から、通学路が使えなくなったときにどこを通

れば安全か、通学路に危険な場所は無いかなど、いろいろなことを考え、避難マニュアルを作成しました。

今回学んだことを地域全体で共有し、防災・避難に役立てていきたいですね。



◀災害時、班長旗をどう活用するか。骨折時の固定や居場所を知らせるなどの意見が出ました。

▶けがをした子をおんぶして避難するとき、どのくらい歩けるかを実践しました。



小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

歩き遍路の里

四国八十八ヶ所霊場の札所は市内に5寺ありますが、そのうち3寺は旧小松町にあります。特に香園寺と宝寿寺は市街地にあり、1キロメートル余りしか離れていません。総合支所南側の「四国のみち」にも、日常的に白衣に菅笠、金剛杖のお遍路さんが行き来します。市内で最も「お遍路さん密度」の高い地域だと思います。



▲歩きお遍路さん

「何か支えになれることはないだろうか？」昨年、勤務の合間を利用し、支所職員有志で50人余りの歩き遍路さん

にお話を伺いました。トイレや休憩所、道標などのハード整備の要望もありましたが「道中、地域の人が声をかけてくれるあいさつや激励の言葉ほど心が温まるものはない、これこそがお四国さんの魅力ですよ」というお話が多かったのが印象的でした。また、お接待が単なるおもてなしではなく、お遍路さんと同行のお大師さんへの功德であり、巡礼できない自分の思いを話すことだとも教えてもらいました。遍路文化の深さに触れさせていただいた時間でした。

これからまさに歩き遍路の季節。「おはようございます!」「お疲れさま!」と一声かけてみませんか。それこそが最上のお接待であり、世界遺産への道なのかもしれませんね。お遍路さんにとって、優しい里でありたいものです。